

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	市民センターを拠点に、自治会・町内会との連携行い、地域行事等積極的に参加している。地域の方より畑を借りての野菜作りや、ホーム前の公園清掃、地域の子どもたちとの交流等を行っている。毎年梅干作りの際、地域のボランティアの方が入居者と一緒に参加して下さる。又年末には、もやい主催の餅つき大会を行い、地域、入居者、家族会の交流を行っている。もやいだよりを地域に回覧。	○	地域の全体が高齢化に向けての取り組みを行っている為、より多くの方とのふれあいができるように、相互間で検討を行っている。地域の方々、子どもたちとの手作り野菜を使っの食事会を検討中。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を目に付く所に貼っている。昨秋に理念についての勉強会を行い、(その人らしく、あるがままに)とは？等細かな内容を職員全体で共有できた。現在個別支援の充実に向けて、入居者の意向を聞き、取り組んでいる。	○	その方のあるがままの姿をできる限り支援できるように、色々な角度からの取り組みを行っている。その方、ご家族の思い、状態等を知り、理念の実践ができるよう考えて行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時にホームの理念、取り組みの方向性を理解していただいている。又、家族会を中心に、運営推進会議、地域交流行事の自由な参加や、もやいだより等で、地域交流の写真なども掲載している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	現在では、地域の方が気軽に声をかけて下さり、野菜や、飾り物などを頂くことも増えてきた。	○	近所の方が、気軽に立ち寄れるよう、交流の機会をさらに増やして行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、地域の方と交流に努めている。現在では、行事参加の声かけをして下さり、地域の小学校行事や、山笠飾り作りなど定期的な参加の機会が増えている。	○	もやい内での行事を検討し、地域の方が、気軽の遊びに来てくれるような環境を作って行きたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム前の公園清掃や、祇園山笠の飾り作り、市民センター文化祭への出展などを行っている。	○	現在、保育園などの読み聞かせボランティアより、ホーム入居者の方で昔話をしてくださる方がいれば一緒に、との声をかけていただいている。ホーム内で、紙芝居などを使って練習を行う予定。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の結果を踏まえ、課題となる点においての取り組みを行っている今回は、介護計画書に関連するアセスメント(センター方式使用)の情報収集と職員全員で行い、レベルアップを行った。	○	今後も評価を活かし、ホーム内のあり方を振り返り、向上に向けて改善できる機会として活用して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、地域の方への呼びかけをしてくれたり、ホーム側の意向を理解していただけるなど、大変重要な機会となっている。	○	地域との重要な意見交換の場となっている為、充実した会議内容となるよう検討して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員の派遣事業の利用を行い、情報交換を行っている。又包括支援センターの方との情報交換も行っている。	○	介護サービス相談員より、入居者の生の声を聞くことが出来たりする。今後情報を活かして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を持っている。又、家族総会で説明を行った際、入居者の御家族で利用された体験談等聞くことも出来た。もやい内にパンフレットを置くなどして必要時は説明等を行っている。	○	今後も随時、学びの機会を作って制度等の理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や、ホーム内勉強会においても事例を交えて意見交換の機会を作っている。	○	事例を交えての意見交換、検討会を随時行って行きたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営に関することやホームの理念を話し、ご家族の不安や疑問点に対し、小まめに連絡相談を行い、理解を図っている。	○	入居時の注意事項等の書類を作成し、ホームの特色や、理解していただきたいことを説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、入居者同志の会話内容、月1回、介護サービス相談員の訪問により意見を話せる機会を作っている。相談員からの報告を職員で話し合う機会を設け、反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時、面会時や、電話連絡等でご家族への連絡を行っている。又毎月もやいだよりを発行し、行事等の写真を掲載している。	○	現在、ご家族へ暑中見舞いや、年賀状は入居者と送付しているが、御家族が遠方いてなかなか会えない方等への手紙のやり取り等を検討し、実施する予定。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、苦情相談窓口を設け、率直な意見を話していただくようにしている。面会時や電話等による対応や、家族会よりアンケートなども実施し、意見については、職員で話し合い、改善していくようにしている。	○	秋(9～10月)に家族交流会を予定、今後の運営に関する貴重な意見交換の場としたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の全体ミーティング、毎日のフロアミーティングの時間を作り反映させている。又、定期的に個人面談の機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者支援の状況に応じて、職員の確保や勤務時間帯の検討を行っている。夏場の地域夜間行事の参加や、夜間入浴希望等、安全を確保する為に職員確保に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1、2階の職員がホーム全体の入居者にかかわり、やむえず、フロア移動が合った場合にも、支障のないように、日頃からコミュニケーションを取っている。離職についても、面談等を行い、解決できるように日頃から職員同志の交流も大切にしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢層は幅広く、その方の能力や諸事情等も考慮し、自己実現に向けて、個々人の能力が発揮できるようにしている。又研修等は積極的に参加できるように配慮し、資格取得に向けての勤務的な配慮や、アドバイス、資料配布等も行っている。	○	今年度より、事業所全体で、専門家による研修会等を行っている。又、他施設の体験学習も実施予定。
20	○ 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修において、繰り返し研修に参加し、参加者より内部勉強会において全員で考える機会を作っている。	○	繰り返し、事例を交えて考える機会を作って行きたい。
21	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じての研修参加や、職員個々人目標（資格取得等含む）を立てての取り組みを行っている。 外部、事業所内、ホーム内と多種の勉強会の参加の機会を作り、知識向上の機会を作っている。	○	研修等での知識を発表する機会を作り、現場の中での取り組みに活かせるように勧めて行きたい。
22	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームが見学する機会を作り、意見交換を行っている。	○	他施設体験実習を検討、実施予定。
23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間、休憩場所の確保や、職員の心身状態の管理に配慮し、気軽に相談やアドバイスが受けられるようにしている。	○	親睦会を不定期に行っているが、定期的な親睦会を検討して行きたい。
24	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の仕事に対するアンケート調査などにより、個々人の状態を把握し、個人の方向性や、希望に向けた支援を行っている。	○	職員個々人の持てる力を発揮する場を作ったり、向上心が持てるような環境を考えて行きたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前にご本人とご家族を交えて面談を行い、対話の中で信頼関係を作れるように努力をしている。又生活暦などの情報を活かしての会話をし、ご本人自身が安心して話ができるようにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にいたるまで、何度も連絡を取り合い、相談できるような機会を作っている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や、ご家族の必要としていることをしっかり見極め、細かな相談、話し合いを行い、デイサービスやリハビリ等の利用を行っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご家族、本人との相談の機会を作り、生活暦や性格などの情報交換を行い、その方が馴染めるような方法で、体験入居等を含め環境に配慮している。入居時の方法もその方が安心して入居できるように打ち合わせをして決めている。又、使い慣れたものや居室内の配置等にも配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の意向や、人生経験を活かして職員が入居者から調理や、掃除等のアドバイスをもらったり、昔の風習などを学んだりしている。	○	人生経験を聞かせていただき、日本の文化、風習を地域と共に受け継いで行きたい。
30	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等、積極的に家族参加を呼びかけている。又ご家族へご本人の支援についての相談をしたり、協力をしていただいている。毎年年末の餅つき大会では、多数のご家族が参加して交流を行っている。	○	現在秋に、ご家族、入居者、職員を交えて、行事を計画検討中、良い交流の機会にしたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会を通じて喜びを共にし、普段食べている食事をいしょに食べていただくなどして関係を深めている。又、遠方の方には、写真と一緒に手紙を送ったりして、日常生活の様子を知らせている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方との再会や、なじみの場所に出かける等の個別支援を行っている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者同志が関係を気づけるように、外出時の席に配慮したり、出かける機会を作ったりしている。現在では、お互いの居室に行き来をしたり、入浴を一緒にしたりされる方もいる。また体調不良等はお互いに気遣い、慰めあうなどの関係が出来ている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	別の施設等移られた方への訪問や、出会った際の声掛けなどを行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在、個別支援を積極的に取り入れている。昨年末より、職員全員で、入居者全員のセンター方式によるアセスメントを実施、ご本人の視点に立った意向を確認しあった。	○	現在継続して、アセスメントを取っている。今後積極的に個別支援が出来るよう繰り返し、話し合っている。今後個別支援の充実を図って行きたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦等をご家族、本人より協力をお願いし、随時把握に努めている。センター方式によるアセスメントを実施、継続中。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方に応じた心身状態の管理（バイタルチェック等）を行い、できるだけ、一人ひとりに関わる時間を作り、現状把握に努めている。又その日の状態を細かく介護記録に残すようにしている。（入居者への気づき等）も記録している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議の出席を呼びかけ、欠席の方にはご意見欄を設け記載していただくようにしている。他のサービス利用の方は、関係者との話し合いも行った上、介護計画に活かしている。毎月、居室担当者にモニタリングを記載してもらい、必要に応じてカンファレンスを開き、介護計画に活かしている。	○	関係者全体の意見が反映した計画内容になるように考えて行きたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日のミニカンファや、毎月のモニタリング、ミーティング等の内容に応じて問題点があれば、話し合いの場にて検討を行い、家族とも相談しながら現状に即した計画を作成している。	○	細かな状況把握が出来るように関係者とも連携を密にし、変化に対応した計画が出来るように努めたい。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、夕方にミニカンファを行い記録している。申し送り時に情報の共有をしながら、計画に活かせるようにしている。	○	職員が同じように入居者の現状を把握し、報告連絡の連携がうまく行くように、又、記録についてもきちんと書けるように研修や話し合いを重ねて行きたい。
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望や必要に応じて、個別支援として事業所内のデサービス利用していただき、大変喜ばれている。又、母体クリニックへでかけ、骨折後のリハビリや理学療法士によるリハビリ計画で、ホーム内での筋力維持のサポートを行っている。又、歯科衛生士による口腔管理も行っている。本人又はご家族が希望される場合、医療との連携による看取りの支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域行事や、小学校行事にも積極的に参加している。地域ボランティアや保育園との交流、年2回消防署との訓練を行っている。市民センターを軸に交流の輪が広がっている。	○	現在、地域の子供たちとの交流(世代交流)の行事を検討中。地域の子供たちに戦争経験や、昔の生活・遊びを話す機会を作り、貢献できるようにしたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、事業所内のデサービスを利用、又ふれあい昼食会等にも参加している。必要に応じて、包括支援センター等のケアマネジャーや、サービス事業者との話し合い、支援を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等において、相談する機会があり、認知症の対応やその他総合的な支援を協働している。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療があり、本人や家族の希望に応じて専門医の受診が出来るように紹介を行っている。又心身の状態に応じて迅速に対応が出来るように随時、報告連絡を行い連携をとっている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と連携を取りながら、専門医へ定期的な相談等を行い治療等が出来るように支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在看護職員が在籍しており、日常の状態等相談しながら、医師との連携をとっている。		
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者入院時には、随時経過等の状態把握を行う為、病院関係者との情報交換を行っている。本人の経過や状態をかかりつけ医と相談しながら、早期に退院し、退院後も安心できるよう支援している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について本人及びご家族へ定期的に意思確認書を取っている。重度化や終末期に近づいた段階においては、ご家族、かかりつけ医との細かな話し合いを行い、早期に対応できるように方針を検討、共有している。	○	直接関わる職員への終末ケアの知識向上を行って行きたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	昨年看取りの支援を行った。今後もホームでの看取り希望があり、状態変化に備えて検討や準備、ご家族との話し合いを行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームから住み替えを行う方については、介護、医療等の添書を作成し、関係者への情報提供を行っている。又ご家族へ利用できる資源や手続き等のアドバイスをを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの性格等によりプライバシーに配慮した対応を話し合い対応できるように心がけている。情報交換時は、本人がいる前で心配するような会話をしないよう気をつけている。	○	何気ない会話や行動でプライバシーを傷つけたりすることがある。常に本人の視点に立って行動できるように考えて行きたい。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	雑談のなかで本人の思いや希望を表せるように、又、本人の力量に合わせた説明により意思決定が出来るように努めている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝時間、入浴等出来る限り個別に対応を心がけている。日常生活は、それぞれが本人のペースで過ごされている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望者には、化粧をしたり、衣類などの買い物に出かけたりしている理美容は月に1回訪問がある。又髪を染めたりのお手伝いも行っている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の準備や後片付けを入居者と一緒に行っている。歩行の悪い方は、椅子に座ってできることの声掛けを行い少しでもできることに参加してもらうよう心がけている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、飲酒等の希望者はいないが、おやつに関しては、食べたいものを買に行ったり、店に食べに行ったりしている。又ホーム内で一緒におやつを作ることも行ってる。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状態に応じて個別に対応、支援している。能力、機能を活かした選択で行うように心がけている。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の希望やタイミングの合わせて出来る限り入浴を楽しめるように支援している。夏場はシャワー浴を希望に応じて使用している。毎日入浴を行っているが、全員入浴していたくのは、時間上困難な為、毎日入りたいと希望する方の意思に添えないこともある。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定期的な寝具の布団干し、シーツ交換を行っている。個人の状態により、冬場の暖房器具、夏場の冷房等を使用し、安眠できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした役割や楽しみごとを行っている。(園芸、買い物、外食等) 雑談のなかで希望を聞き支援できるようにしている。	○	地域の行事参加や、コンサートなどへも参加している。現在温泉へのお出かけを検討中。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のおやつをお小遣いで購入されたり、状態に応じてお金を所持したりしている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外へ出かけるよう日ごろから散歩などの支援を行っている。月に1度は車を使って戸外へ出かけるようにしている。	○	車椅子使用の方も積極的に散歩の支援を行っている。今後戸外へ出かける機会を増やして行きたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望に応じた外出場所等を支援している。現在コンサートやケーブルカー登山などを行っている。これらの行事に家族も参加している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、ご家族から定期的にかかってくる方もいる。遠方の方には、手紙を書いていただいたりしている。季節ごとに、暑中見舞いや、年賀状も出している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	知人や友人の方も訪問されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修に参加し、繰り返し職員間で話し合いや勉強会を行っている。現在まで身体拘束の事実はないが、マニュアルも作成している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時、勝手に不審者が侵入し、入居者が怖い思いをした事実があるため、玄関には鍵を掛けているが、入居者が中から自由に開けることが出来る。チャイムが鳴るので、安全に配慮し、さりげない支援が出来ている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者との関わりを持って対応し、所在の確認を行っている。居室内や、トイレ・浴室での気分不良等もあるため小まめに訪室を心がけている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	大量洗剤等の保管場所は鍵を掛けているが、ご自分で洗濯したり去れる方もいて、その方に応じた取り組みを行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な内外の勉強会等で知識習得し、事例をもとに話し合いの機会も作っている。災害については、定期的な訓練を行っている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、緊急時に備え勉強会を行っている。	○	定期的実践に役立つ対応の勉強会を行って行きたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、地域、家族に参加を呼びかけ訓練を行っている。	○	今後、地域への緊急連絡網の整備などを進めて行きたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族へ随時、日常の状態報告を行っている。その際起こりうるリスク等も含め話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや状態観察を行い、体調管理を行っている。体調不良の訴えや、状態変化は随時主治医へ報告、指示をもらう等対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、服薬方法等、指示や薬説明書にて確認、職員周知を行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	その方の状態に応じて、食べ物の工夫を行っている。水分補給や便秘気味の方に対して繊維質の物を取り入れたり、その方の食嗜好も取り入れ、予防に努めている。又その方の状態に応じて身体を動かす機会を作り、散歩・体操・日常生活の中で身体を動かせるように配慮している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。又口腔用品の定期的な消毒も行っている。月に1度以上、事業所内の歯科衛生士により口腔ケア指導及び入居者の口腔管理を行っている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に応じて食事・水分が取れるように、形態を工夫したり摂取量の管理を行っている。事業所内の管理栄養士による献立バランスのチェックや相談等を行っている。	○	入居者の状態に応じて、食べることを楽しみながら食事バランスや水分が確保できるように考えて行きたい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルの作成、内外の研修を行っている。感染の時期には、ミーティング等で取り決めの再周知を行ったりしている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日消毒を行っている。食材はできるだけ新鮮なものを購入、賞味期限のチェックを入れるようにしている。現在自家菜園を行い、取れたての野菜を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表札等をつけているが、玄関が勝手口より奥にある為、勝手口をノックして来られる方が多い。地域の子どもたちが通りに面したベランダより声をかけてくれたり、勝手口の方へ来てくれたりして、気軽に声をかけられる環境である。	○	玄関の案内をわかりやすくなるように検討したい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは、入居者とお花を植えたりしている。又散歩の途中などで地域の方が、草花を分けてくれたりして、リビング内に飾っている。共有部分のリビングは、台所、トイレ、洗面所等があり、生活の雑音は常に聞こえているが、現在その音が皆が心安ん感につながっていることもある。トイレは暖簾で目隠しを行うなどの配慮をしている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者それぞれの心地よい居場所があり、ソファの座る場所や、テーブルの座る位置もご自分で決まった場所に行かれる。気のあった方とお互いの居室に行かれ過ごされたりしている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、御家族、ご本人の使い慣れた物を自由に持って来られている。食事の食器などもご自身の使い慣れた物を使用されている。	○	身体状態の変化に応じて、心地よい空間への工夫が必要な為、随時、検討して行きたい。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いや、外気の状態などみながら都度、換気等を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の不安定な方も廊下等の手すりを使ってホーム内は自力で歩かれている。居室内の家具の配置等も動きやすいように配慮している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活歴に沿った体験等を活かし、ご本人の状態に合わせて、できることを考え、自立につながることを支援している。		
89	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダより外を眺めたり、植物などをみて楽しまれている。外周りには野菜や、花を植えて定期的に入居者と管理している。		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
V. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に○印をつけること)	
		↓	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない